

講義名	心理療法論			授業形態	
担当教員	銅直 優子	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

心理療法とは、個人の心理的な悩み、症状などを解決するために、セラピスト（心理療法行為を行う人）とクライアント（心理療法を受ける人）の間で、言葉による表現、感情の把握、意識されている体験のやり取りの過程を行っていくものである。ここで行われるやり取りにはセラピストの背景にある学派がある学派が反映される。また、同じ学派であっても、そこでやり取りされることには、いろいろな方法（技法）が存在する。心理療法には、さまざまな学派があり、各学派には「人間をどのように捉えていくか」という人間観、心理療法をどのように捉えていくのかという心理療法観、そして心理治療を受ける人どのように扱っていくのかという技法論がある。この講座では、心理療法とは何か？ということを考えていくことを始めとし、代表的な学派の創始者について紹介していくとともに、その根拠にある人間観について解説していく。また、心理療法の対象となる人達の中には、いろいろな病理症状に苦しんでいる人がいる場合も多い。その病理について解説していく。そして、代表的な心理療法の技法について紹介・解説を行っていく。

到達目標

人間の精神構造・精神機能について理解できることができるようになる。どのような精神病理があるかが理解できるようになる。代表的な心理療法について理解できるようになる。ある心理技法を使った治療計画を立てることができるようになる。

提出課題

課題がある場合は、授業内に説明します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間テストを予定しています（1-2回）。テストを行った翌週に授業内でテストについて解説を行います。

評価の基準

中間テスト（40％）
定期試験（60％）
中間テストを受験できなかった人は、定期試験を100点満点で評価したものが最終成績となります。

履修にあたっての注意・助言他

本講座の履修前に臨床心理学の講座を履修することをお勧めします。授業内で、必要な指示を出していきますので、授業内で出た指示は、必ず、記録に残すようにしてください。授業方針（中間テストや定期試験など）が変更された場合は、状況に応じて、その都度、授業内でお知らせしていきますので、毎授業受講し、情報を確認できるようにしておいてください。

教科書

.使用しない。				
.配布資料あり。				

参考図書

.カウニングとは何か 理論編。	池田 久剛	ナカニシヤ出版	2200	9784888487610
.ロジャ・スカライアント中心療法 カウニングの核心を学ぶ。	佐治守夫・飯長書一郎	有斐閣新書	1650	978464117376
.心理療法ハンドブック。	乾 吉佑 他編	創元社	3850	9784422113265

その他

必要に応じて資料を配付する

授業計画

- 1心理療法の基礎知識
予習：「心理療法」について調べ、キーワードを抜き出しておくこと。疑問点については、書き出しておき、授業時に解決すること（120分）
復習：授業資料とノートを見返して、重要なポイントをまとめ、文章で説明できるようにする。（120分）
 - 2精神病理への理解 1（精神病理とは何か、神経発達障害など）
 - 3精神病理への理解 2（統合失調症、うつ病など）
 - 4精神病理への理解 3（不安障害群など）
 - 5精神病理への理解 4（強迫症など）
- 第2回～第5回の授業においては、各自の精神病理に関して、下記の予習・復習を行うこと。
予習：（ ）内のキーワードについて調べておくこと。また、事例を見つけて、その事例の特徴を書き出しておくこと（120分）
復習：授業資料とノートを見返して、授業内で学習した精神疾患について文章で説明できるようにする。不明点があればまとめて授業時に質問できるようにしておくこと（120分）
- 6心の働き（意識・無意識）
予習：（ ）内のキーワードについて調べておくこと。自分の意識・無意識について具体的な例を用いてせつめいすること（120分）
復習：授業資料とノートを見返して、授業内で学習した内容について文章で説明できるようにする。不明点があればまとめて授業時に質問できるようにしておくこと（120分）
 - 7人格論と発達論
予習：フロイトとエリクソンの発達論について調べておき、それがどのようなものであるかキーワードと思われる単語を用いてまとめておくこと（120分）
復習：授業資料とノートを見返して、授業内で学習した内容について文章で説明できるようにする。不明点があればまとめて授業時に質問できるようにしておくこと（120分）
 - 8心理療法論 1（精神分析療法）
予習：「精神分析療法」について調べておき、それに関するキーワードを抜き出し、ワードの説明を書き出しておくこと（120分）
復習：授業資料とノートを見返して、授業内で学習した内容について文章で説明できるようにする。不明点があればまとめて授業時に質問できるようにしておくこと（120分）
 - 9心理療法論 2（クライエント中心療法）
予習：「クライエント中心療法」について調べておき、それに関するキーワードを抜き出し、ワードの説明を書き出しておくこと（120分）
復習：授業資料とノートを見返して、授業内で学習した内容について文章で説明できるようにする。不明点があればまとめて授業時に質問できるようにしておくこと（120分）
 - 10心理療法論 3（行動療法：理論と基本概念）
予習：「行動療法」について調べておき、それに関するキーワードを抜き出し、ワードの説明を書き出しておくこと（120分）
復習：授業資料とノートを見返して、授業内で学習した内容について文章で説明できるようにする。不明点があればまとめて授業時に質問できるようにしておくこと（120分）
 - 11心理療法論 4（行動療法：ケースの検討）
 - 12心理療法論 5（行動療法：治療計画の作成）
- 第11回～12回までは各自下記の予習・復習を行うこと。
予習：10回の授業で説明のあった理論についてまとめておき、不明な点を書き出し、授業内で質問できるようにしておくこと（120分）
復習：授業に取り組んだ事例を見直し、自分なりに治療法を考案して試みる。疑問があれば書きだして、次の授業で確認できるようにしておくこと（120分）
- 13心理療法論 6（認知療法）
予習：「認知療法」について調べておき、それに関するキーワードを抜き出し、ワードの説明を書き出しておくこと（120分）
復習：授業資料とノートを見返して、授業内で学習した内容について文章で説明できるようにする。不明点があればまとめて授業時に質問できるようにしておくこと（120分）
 - 14心理療法論 7（遊戯療法、芸術療法、箱庭療法など）
予習：（ ）内の療法について調べておき、それに関するキーワードを抜き出し、ワードの説明を書き出しておくこと（120分）
復習：授業資料とノートを見返して、授業内で学習した内容について文章で説明できるようにする。不明点があればまとめて授業時に質問できるようにしておくこと（120分）
 - 15心理療法論の総括
予習：これまでの心理療法の種類について不明な点を取り上げ、何が興味であるかを抜き出しておき、授業時に質問すること（120分）
復習：これまでの授業全体の振り返りをし、特に治療計画については熱心に復習すること（120分）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

達成目標（ ）を達成することで、ディプロマポリシーの「人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することに貢献することができる。また、達成目標 から を達成することで、ディプロマポリシーの「援助を求めると人の心理と行動の知識を有し、援助現場で心理学を応用すること」に貢献することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業回によってはキャンパスクロスやレスポンスを活用したり、グループワークを活用し、受講生の意見、解答を提出してもらい、それについてコメントを行う。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」 病院・企業等にて公認心理師、臨床心理士としての実務がある。臨床現場における心理療法の実際を授業の中で提供事例（加工事例）として学びに活用している。

備考